



キャンプファイヤーを囲み「マイムマイム」を踊る児童

江小と五小が宿泊研修 仲間と防災意識高める

9月2日と3日の両日、江刈小学校（小室好司校長、児童27人）を会場に、江刈小学校と五日市小学校の5年生9名が、合同宿泊研修を行いました。

児童たちは校庭に「江刈キャンプ村」を設営し、薪を使った野外炊飯や、体育館内に1人1張りのテントを張るなど、災害発生時を想定した活動に積極的に臨み防災意識を高めていました。また、焼き板工作やキャンプファイヤーなどの共同活動を通じて協調性を育み、仲間との楽しい思い出を心に刻んだ様子でした。

葛小で福祉教室開催 助け合いの心を学ぶ

子ども福祉教室が9月3日、葛巻小学校（佐々木美江子校長、児童101人）で行われ、3年生の児童14人が参加しました。

講師を務める社会福祉法人誠心会の職員が、車いすの安全な扱い方や利用者との接し方などを説明すると、児童は慎重に車いすの操作や利用者の介助を実践していました。滝又遼馬さんは「車いすの生活はとても大変だと分かりました。もし車いすの人が困っていたら、不安にならないように声を掛けながら助けたい」と車いす利用者への理解を深めていました。



車いす利用者との接し方を学ぶ児童

災害時の電力確保 三菱自動車と連携

岩手三菱自動車販売(株)、三菱自動車工業(株)、葛巻町の三者が9月13日、「災害時における電動車両等の支援に関する協定」を締結しました。

この協定は、町で災害が発生した際、三菱自動車が外部給電可能な電動車両などを無償で貸与し、避難所や災害対策本部などの電源供給を支援するものです。締結式で鈴木重男町長は「各地で想定を超えるような災害が頻発する中、町では災害への備えを強化しています。今回の電動車両の支援は、町民の大きな安心につながるものであり感謝します」とあいさつしました。



左から岩手三菱自動車販売(株)佐藤東耕常務取締役、鈴木町長、三菱自動車工業(株)国内営業本部根本翔平マネージャー



捕獲した水生生物を観察する児童

水生生物と川の環境 小屋瀬小児童が調査

8月20日、小屋瀬小学校（根反正樹校長、児童27人）の3～6年生の児童17人が、地域の環境を学ぶため水生生物調査を行いました。

児童は、学校近くの山形川と土谷川が合流する川辺で、たも網を使い水生生物を捕獲。水がきれいな水域に生息するというヒラタカゲロウやヘビトンボなどを見つけ、熱心に観察していました。小澤龍斗さん（3年）は、「きれいな水にすむ生物を見つけ、名前を覚えられて良かった」と話し、調査を通じて地域のきれいな河川と自然の豊かさを確認していました。

水害時の対応学ぶ 水防工法訓練実施

集中豪雨や台風など、水害時の水防活動を学ぶ水防工法訓練が8月22日、辰鼻地区の馬淵川河川敷で行われました。

訓練には第2中隊の消防団員30名が参加し、葛巻分署員の指導のもと、ブルーシート積み土のう工法訓練やゴムボート展開訓練、救命浮環取扱訓練などを行いました。

団員は、水害時を想定した訓練に真剣な表情で臨み、手際良く土のうを作成したり、実際に空気を入れてゴムボートを膨らませるなど、熱心に取り組んでいました。



ゴムボートの展開を実践する消防団員

オンライン移住相談 小西さんが町を紹介

8月29日、盛岡広域振興局主催のオンライン移住相談会が開催され、地域おこし協力隊の小西まどかさん（茶屋場）が先輩移住者として町の様子や自身の暮らしを紹介しました。

イベントには全国各地の地方移住を考えている18人が参加し、小西さんは子どもと関わる仕事にこだわって、山村留学生寄宿舎ハウスマスターという仕事に巡り合った経緯を紹介。「移住後の暮らしで、自分が大事にしたいことは何かを考えることが大切」と、参加者にアドバイスしていました。



パソコン画面上の参加者（円内）に語りかける小西さん